

地方部における観光コンテンツ充実のための
ローカルガイド人材の持続的な確保・育成

2024.12.06



さとゆめ
LOCAL BUSINESS INCUBATOR

取締役 COO 長野支社長 浅原 武志

はじめに | 自己紹介



取締役 COO 長野支社長

浅原 武志

Asahara Takeshi

経歴

2002年に信濃町役場に入職し、C.W.ニコル氏が提唱した「健康」と「環境」をキーワードにした地域活性化構想が組み込まれた癒しの森事業を担当し、事業全体の企画立案、運営に従事。全国に先駆けて森林セラピーを導入し、信濃町と都市部企業を40社以上提携させ、地域の活性化と企業の健全化を両立した連携モデルを樹立。2016年に信濃町役場を退職後、コンサルタントとして全国の自治体の地方創生に携っています。

その他の活動

兵庫県宍粟市営業部長

NPO法人Nature Service 共同代表

長野県森林セラピー等協議会 副会長

しなの町Woods-Life Community 事務局

信濃町ホースプロジェクト推進協議会事務局

信濃町癒しの森事業推進委員

01 ローカルガイド育成に関するさとゆめの実績

事業地域



主な人材育成地域

林野庁森林サービス産業／長野県森林サービス産業／山形県上山市
／山形県小国町／神奈川県秦野市／東京都奥多摩町／茨城県大子町
／長野県信濃町／長野県佐久市／長野県須坂市／長野県池田町／長
野県小海町／長野県木曽町／長野県松川町／山梨県小菅村／愛知県
豊田市／兵庫県姫路市／兵庫県宍粟市／広島県安芸太田町／山口県
山口市／福岡県うきは市／福岡県篠栗町／宮崎県日之影町／宮崎県
日南市／宮崎県串間市／沖縄県今帰仁村／沖縄県国頭村

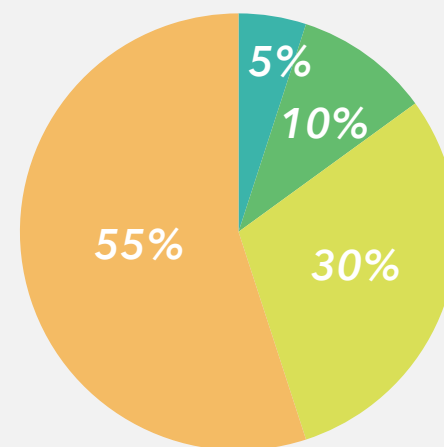
育成人数



全国合計
約**1,550名**

男性 **40%**

女性 **60%**



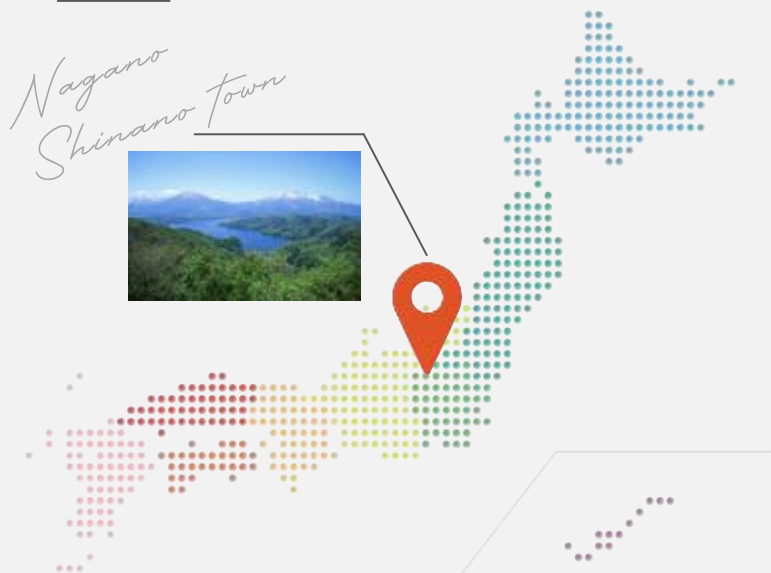
■ 20～30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上

地域の主婦の

新たな活躍の場にも

01 ローカルガイド育成に関するさとゆめの実績

長野県信濃町



長野県信濃町は、県内でも有数な観光地でしたが、スキー人口を中心に観光客が減少し、過疎化、少子高齢化もあり、市町村合併を余儀なくされていました。しかしながら住民有志の8名がC.W.ニコル氏の地方創生構想に呼応して立ち上がり、森林セラピーを核にしたヘルスツーリズムを展開し、さらに都市部企業とつながりを作って関係人口の拡大に成功しています。

信濃町プログラムのパッケージ化



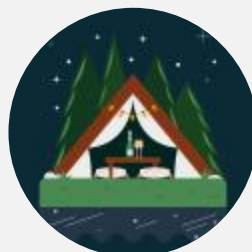
森林セラピートレーナー
(森林メディカルトレーナー®)

内容

専門的な研修を受け、利用者と一緒に森に入り、五感を開放させ森林療法や健康チェック。免疫療法を行い利用者の健康づくりを支援する。

関連する地域主体

主婦
宿泊業オーナー
自然観察指導員
アロマセラピスト
森林組合員等の地元住民
関係人口・交流人口



癒しの森の宿

静かな環境の中でアロマオイルやハーブティー・薬草茶の提供を行う。食事では、朝採り野菜・きのこ・薬草等の郷土食材を使いおもてなしする。

地元のペンション
ホテル



滞在中の食事

地元有機野菜等をたっぷり使った手づくりの優しい味のお弁当。アレルギー対応可能、マクロビとティックで提供することもできる。

地元の高齢者等
(現在は専門業者)

01 ローカルガイド育成に関するさとゆめの実績

Point プログラムの専門性を高めるために森林メディカルトレーナーの登録制度を導入



01 ローカルガイド育成に関するさとゆめの実績

森林メディカルトレーナー

現在は関係人口も
活躍中！！



受講資格

- ①18歳以上の健康な男女で**信濃町の住民**又は、
町内に勤務している者か**将来勤務予定の者**
- ②町の森林メディカルトレーナー講座を受講完了でき、
将来トレーナー活動を希望する者

2021年度から町外の参加者も受入れ、町内外住民は定員の半数ほど

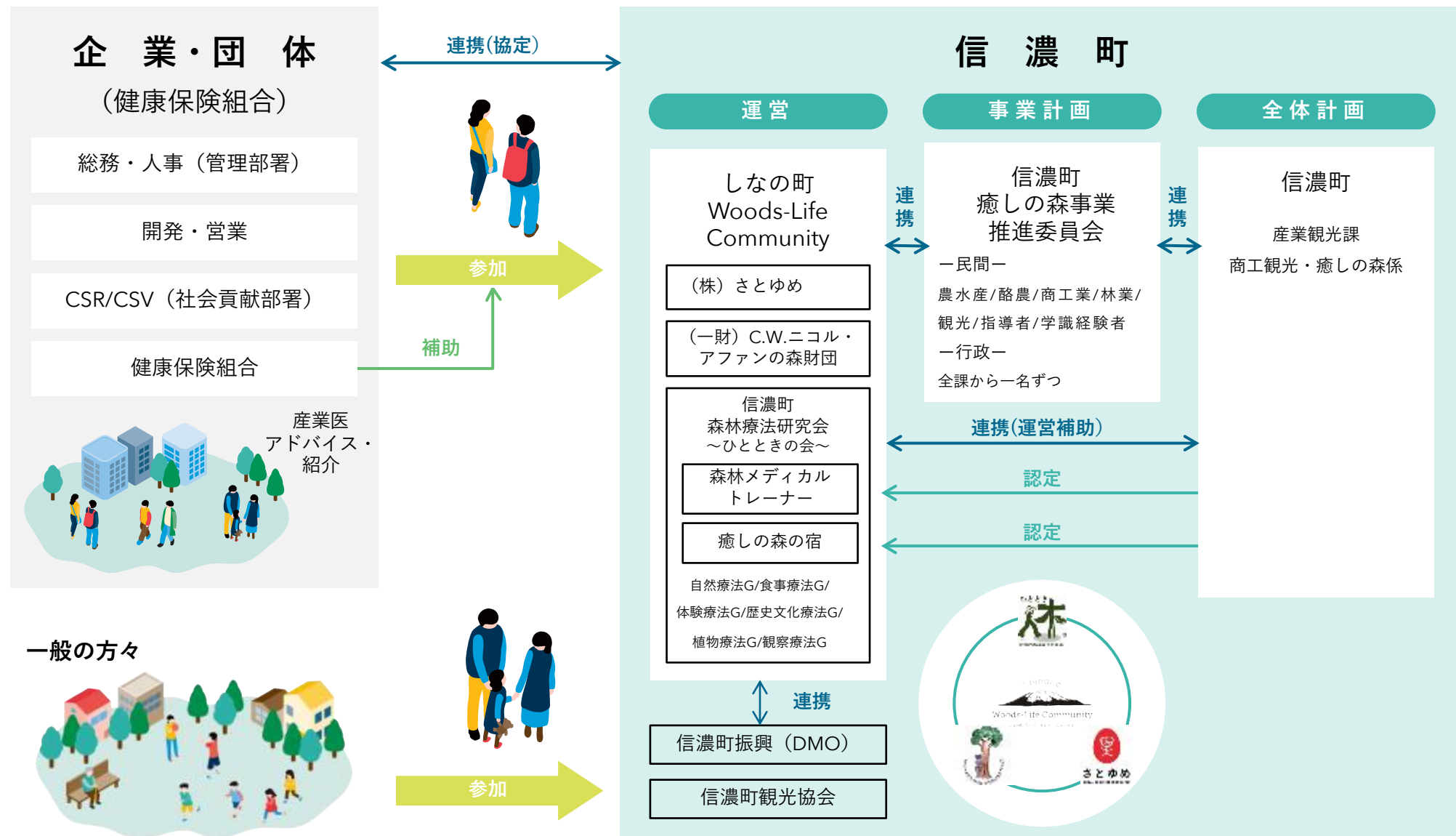
番号	科目（内容）
A	1 エコメディカル&ヒーリングビレッジ事業の概要
A	2 森林メディカルトレーナーの職務等
A	3 癒しの理論
B	4 森林のもつ機能・効能
B	5 チェックシートの記入方法
B	6 最先端森林療法について（ドイツ事例）
C	7 メンタルトレーニングの実務カウンセリング
D	8 森林のもつ機能・効能の講座内容の現場実践 森林内での安全管理
D	9 安全管理、危機管理講習
E	10 アロマテラピー、呼吸法・免疫療法の指導
F	11 ハーブ（ハーブティー含む）、薬草及び薬膳料理

認定

全ての講座を受講完了した者を「森林メディカルトレーナー」として **信濃町長が認定**。
(但し、審査委員会においてふさわしいか審査)

01 ローカルガイド育成に関するさとゆめの実績

信濃町癒しの森事業 体制図（BtoB型）



01 ローカルガイド育成に関するさとゆめの実績

信濃町森林療法研究会（ひとときの会）

- ・「ひとときの会」の活動目的は、来訪者により質の高いガイド及びサービスを提供することを目指し、研究・研鑽を行う組織。
- ・「森林メディカルトレーナー」「癒しの森の宿」は、認定後、この研究会で活動することが求められる。
- ・現在、6つのワーキンググループ（自然療法G、食事療法G、体験療法G、表現文化療法G、植物療法G、観察療法G）を中心に毎月2回程度のグループ活動により研究を展開している。
- ・「癒しの森の健康講座」を開催し、町民の健康づくりの取り組みも行っている。

ひとときの会 - ワーキンググループ -

自然療法

カウンセリング、森林浴、呼吸法などから、人がもつ免疫力を高める効果の研究

植物療法

信濃町に自生している植物での漢方やアロマテラピー、薬草などの可能性を研究

食餌療法

健康と言えば食事は欠かせない。山菜、郷土料理、ハーブなどの研究

体験療法

木を切り出す、ガラス細工、陶芸などの体験から得られる癒しの効果を研究

観察療法

自然観察などから得られる癒しを研究。動物に癒しを感じる人は少くない

表現文化療法

歴史や文化に思いを馳せることで得られる癒しの効果を研究

01 ローカルガイド育成に関するさとゆめの実績

長野県信濃町における経済波及効果

直接効果 約**2億1,890**万円

総合効果 約**3億 972**万円

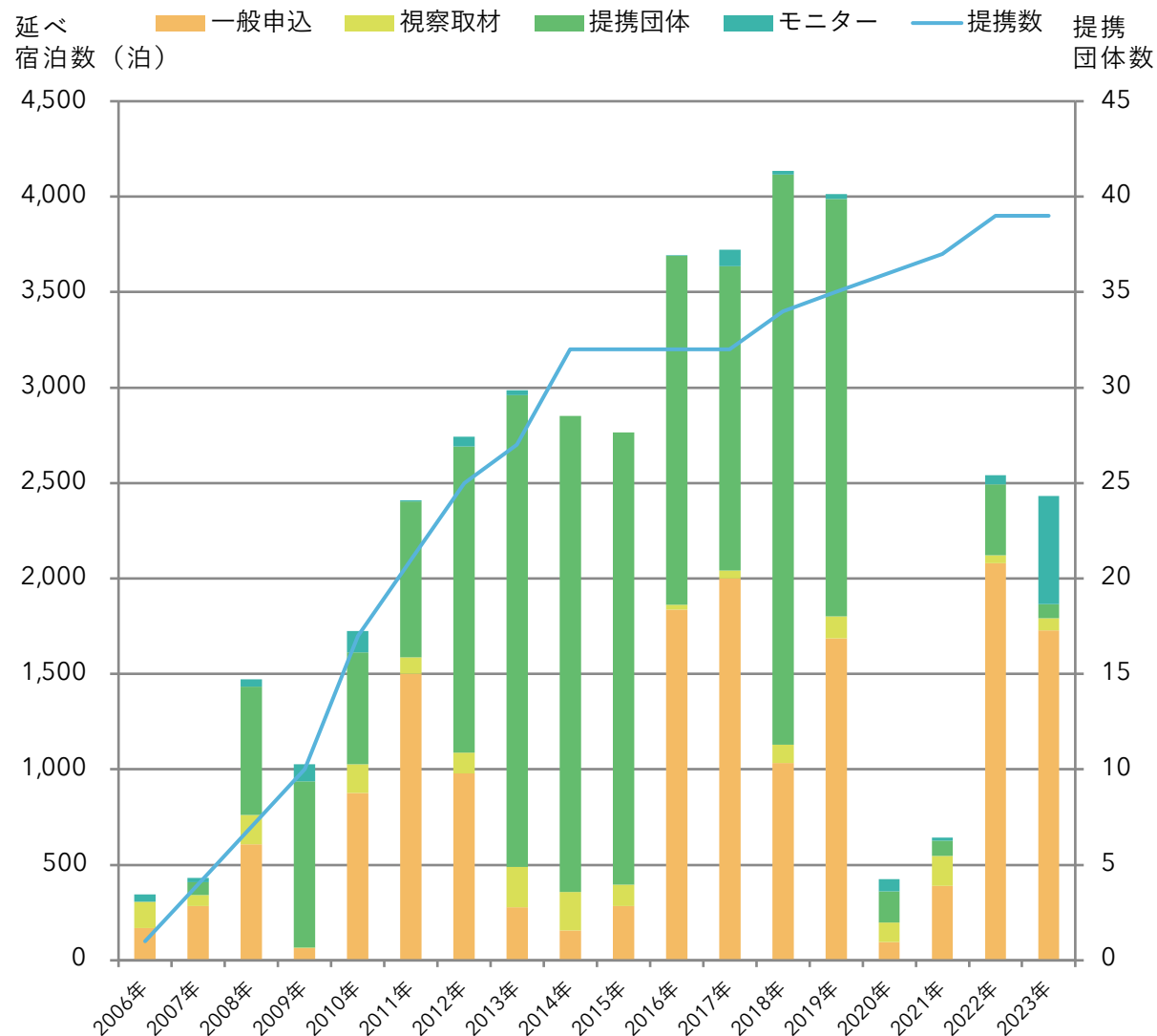
2010年～2014年（筑波大学の調査結果）

企業団体等とのマッチング数

39 団体

信濃町の森林セラピー事業の効果は、経済面、社会面、環境面に分けて、捉えることができます。経済面の効果は定量的に捉えられています。新型コロナで移動が制限される前の2019年度には、トレーナー料金収入として1,000万円があり、森林セラピー関連の宿泊で4,000人/年の宿泊がありました。森林セラピー関連の経済波及効果は地域全体で年間1億円程度と推定されています。また、信濃町の知名度やイメージが高まったことによる間接効果もあり、森林セラピーによる経済効果は十分に大きなものです。

癒しの森事業 延宿泊数推移



01 ローカルガイド育成に関するさとゆめの実績

信濃町における森林セラピー事業の歩み

時期	段階	主な出来事
2000年以前	保養地としての地域形成	・大正時代に野尻湖畔に外国人専用の別荘地が形成（現在の国際村に） ・1960年代、野尻湖近くの森が大学関係者を中心に分譲（現在の大学村に） ・黒姫高原近くの森に、いわさきちひろ等の文人の山荘が点在 ・C. W. ニコル氏が、1986年から荒れ果てた里山を購入、「アフアンの森」と名づけ、森の再生活動開始 ・スキー客を対象にしたペンションの立地 → 大規模な開発を免れた豊かで静かな自然の継承
2000年代前半	森林セラピーの立ち上げ	・2002年、C. W. ニコル氏が「エコメディカル&ヒーリングビレッジ構想」を提唱 ・市町村合併が議論となるなか、町民有志が地域づくりを検討するなか2002年に県から「癒やしの森」事業のことを聞き、活路を見いだす。 ・2003年に「癒やしの森事業推進委員会」の設置、事業を円滑に進める協働体制を構築 ・2003年・2004年と「森林メディカルトレーナー」の養成講座、「癒やしの森の宿」の認定 ・2004年、森林セラピーによる効果を医学的に実証する調査研究 ・2004年、町役場に「癒やしの森」係を設置
2000年代後半以降	林野庁事業の全国転換	・2006年、林野庁が森林セラピー基地の認定がスタート、信濃町が第1号認定 ・2008年、東京のTDKラムダ（株）が信濃町と最初の事業提携（社員研修で森林セラピーを実施） ・2008年、林野庁により森林セラピーソサエティの発足 ・2009年、林野庁により森林セラピーガイド、森林セラピストの認定スタート ・2009年、信濃町の事業提携企業が10社を超える。2012年には25社に ・2015年、長野県森林セラピー推進協議会発足
2020年代	コロナ禍での新たな兆し	・森林セラピー事業の受け入れ窓口としてしなの町Woods-Life Communityの設立 ・新型コロナ禍で法人の団体客減少、個人客の増加 ・2020年、森林セラピー基地（2つ星）認定

01 ローカルガイド育成に関するさとゆめの実績

長野県信濃町における経済波及効果

効果側面		効果の具体例
ホスト側	経済面	・ 森林メディカルトレーナーの料金収入 ・ 森林セラピー関連の宿泊による収入 ・ 森林セラピーでの訪問時の地域内での飲食、土産購入 ・ 地域イメージの向上による観光客や地域産品消費の増加
	社会面	・ 住民の主体性や住民間の関係性コミュニティ力の高まり ・ 信濃町に思いをもつ関係人口の増加 ・ 地域医療の維持・強化（医師の増員） ・ 高齢者の参加による生きがいづくりや健康づくり
	環境面	・ 森林セラピーのための整備による森林の保全 ・ 森林の持つ価値に対する地域住民の理解 ・ 人間の健康と関わる自然を大切にする意識の向上 ・ 森林保全による生物多様性の向上
ゲスト側		・ 企業における従業員のリフレッシュ、健康づくり ・ 従業員の離職率の低下 ・ 自分を見つめる時間の大切さや自己の内面への意識向上 ・ 体験による森林や自然に対する意識向上

01 ローカルガイド育成に関するさとゆめの実績

そのほかの地域事例

BtoB型



長野県小海町

長野県小海町では、地方創生事業を使って、誰もが憩えるまちを目指す“憩うまちこうみ事業”を展開中です。都市部企業の方たちに癒しを提供するため、独自のセラピーメニュー（Re・Designセラピー）を用意し、全国に営業も展開しています。令和6年11月現在で27社の企業と連携に成功しています。

- ・ 協議会で事業コンセプトを立案
- ・ 都市部企業をターゲットに独自のプログラム、Re・Designセラピーを展開
- ・ IT企業・中小企業にターゲットを絞り27社と提携
- ・ ワークション施設も2020年からスタート



沖縄県今帰仁村

今帰仁村観光協会では、2021年から今帰仁村体験・滞在型観光推進事業としてウェルネスツーリズムを推進してきました。今帰仁村のゆっくりとした時間と雰囲気や歴史を感じてもらうためにセラピストである「今帰仁ちゅーなー（今帰仁村認定）」を育成してきました。多くの方にモニターツアーにも参加していただき、プログラムのブラッシュアップを行い、コンセプトでもある「ふと、今帰仁」を思い出すような体験プログラムが出来上がりました。

そこで2024年11月をもってウェルネスツーリズムのサービスインをします！

高価格帯宿泊併用型



山梨県小菅村

山梨県小菅村では、NIPPONIA小菅源流の村に宿泊するゲストを対象に、「小菅おさんぽ」を提供しています。村人が案内人となり周辺を散策するプログラムです。

村人だからこそ知っている道を通り、植物を観察したり、通りがかった村人と会話をしたり。一期一会のお散歩をし、情緒を感じる仕掛けを施しています。



02 さとゆめが考えるローカルガイド育成

Point ガイド制度を成功させるための5つのポイント

01 出口（活躍の場） からつくる

ガイドは目的ではなく手段であるので、ガイドが活躍できる事業や環境を先につくる。

02 ガイドの収益 モデルをつくる

企業研修への組込み、宿泊へのインクルードなど、ガイドが収益を得られる仕組みをつくる。

03 官民連携により 信頼性を高める

首長によるガイド認定、行政との営業連携により信頼性を高める。それが単価UPにもつながる。

04 独自のコンセプト を掲げる

独自性・新規性の高いコンセプトのローカルガイド制度にすることでガイド志願者等を集められる。

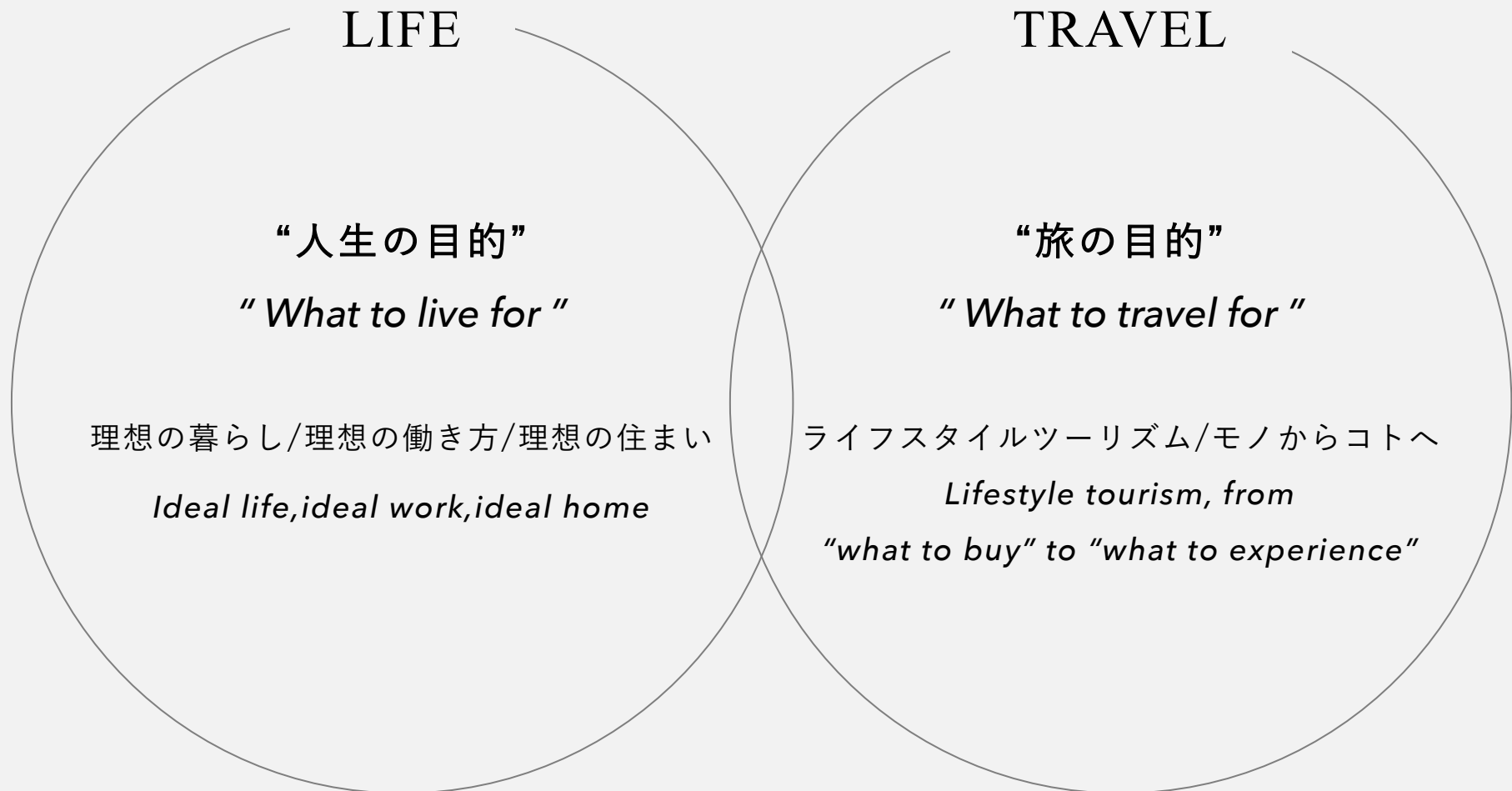


05 ガイドの需要を 掘り起こす

ガイド育成だけでなく、情報発信、旅行会社・企業等への営業などにより、ガイド需要を掘り起こす。

03 さとゆめが考えるローカルガイド像の要素

Point
ライフスタイルツーリズム、モノからコトへ 誰かの日常（暮らしや人生）が、誰かの非日常（旅行）になる。



03 さとゆめが考えるローカルガイド像の要素

Point 「新たな旅の目的地」になるための2つの要素

「ふるさと」の定義

「ふるさと」とは、
その人の「情緒」が
形成された場所。



「情緒」の定義

「情緒とは、
野に咲く一輪のスマイレを
美しいと思う心。」
(数学者・岡潔)



さとゆめが大切にする価値 その土地にあるモノ・コト・ヒトの「豊かな情緒」にふれること

「ふるさと」になるプロセス

「豊かな情緒」にふれる。

01

情緒が形成された時の
記憶の断片がつながる。

02

懐かしいと思う。

03

また来たいと思う。
帰ってきたような感覚になる。

04

その土地が「ふるさと」になる。

05

03 さとゆめが考えるローカルガイド像の要素

Point ローカルガイドに重要な3つの要素

五感をひらくために・・・（ゲストに情緒を感じ取っていただくために）



01

人との関わり

暮らし、言葉、文化、コミュニケーション

（宮本常一）



02

自然との関わり

暮らし、環境、風土、食

（岡潔）



03

自分の体に向き合うこと

情緒の発達は、内臓感覚の気づきから始まる

（三木成夫）